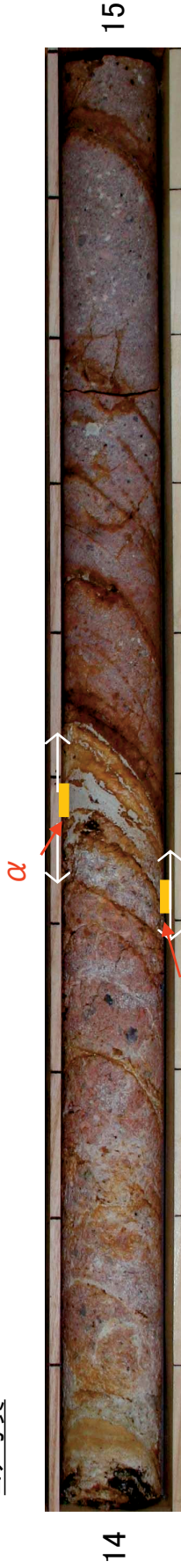


・薄片は断層面 α 及び細粒化が進んだ範囲を含むように作製した。

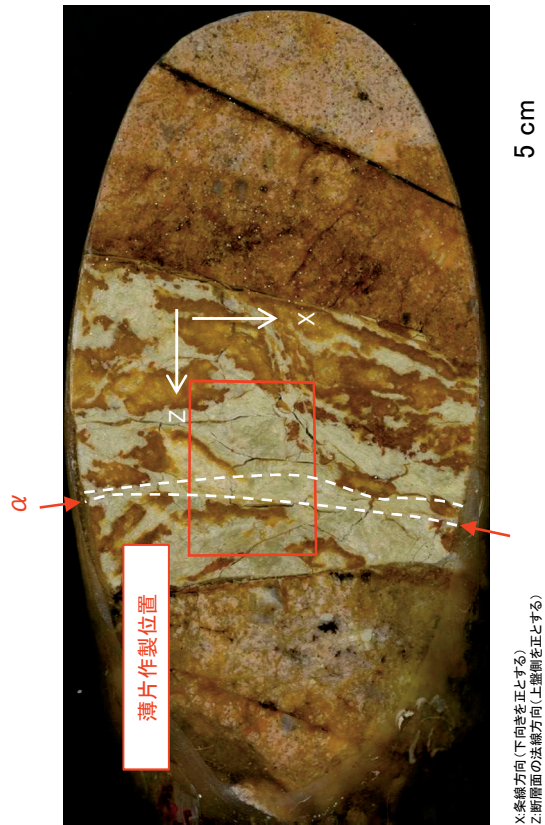
※断層面 α は最新活動面

コア写真



凡例
 断層ガウジ
 断層面
 破碎部範囲※
 ※:写真上は白色で記載

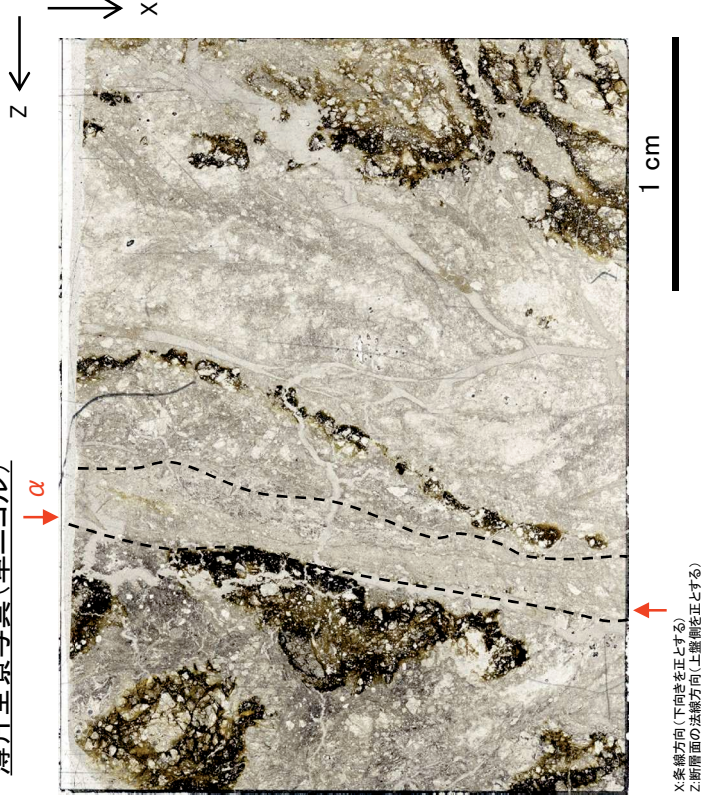
薄片作製位置写真



X:条線方向(下向きを正とする)
 Z:断層面の法線方向(上盤側を正とする)

凡例
 断層面
 肉眼観察で相対的に細粒化が進んだ範囲※
 ※:写真上は白色又は黒色で記載

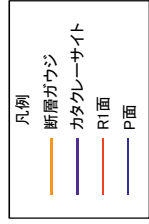
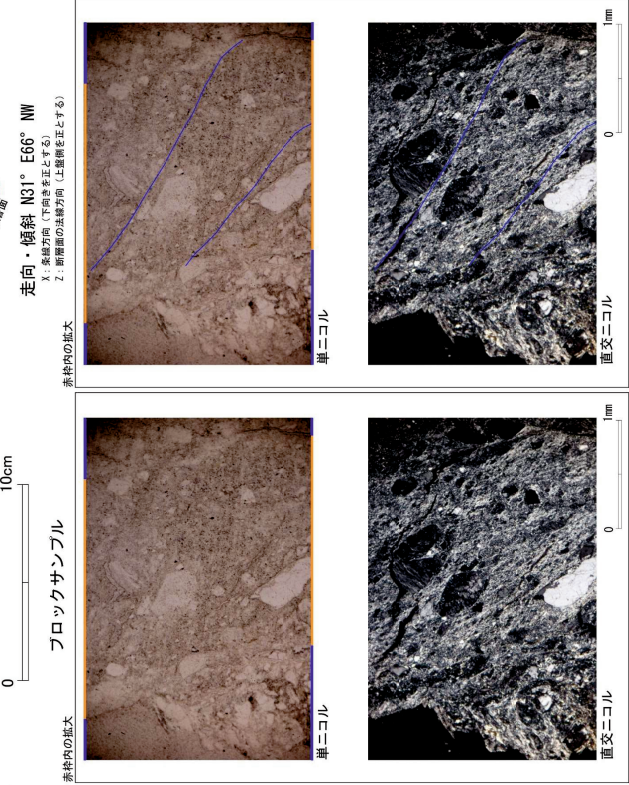
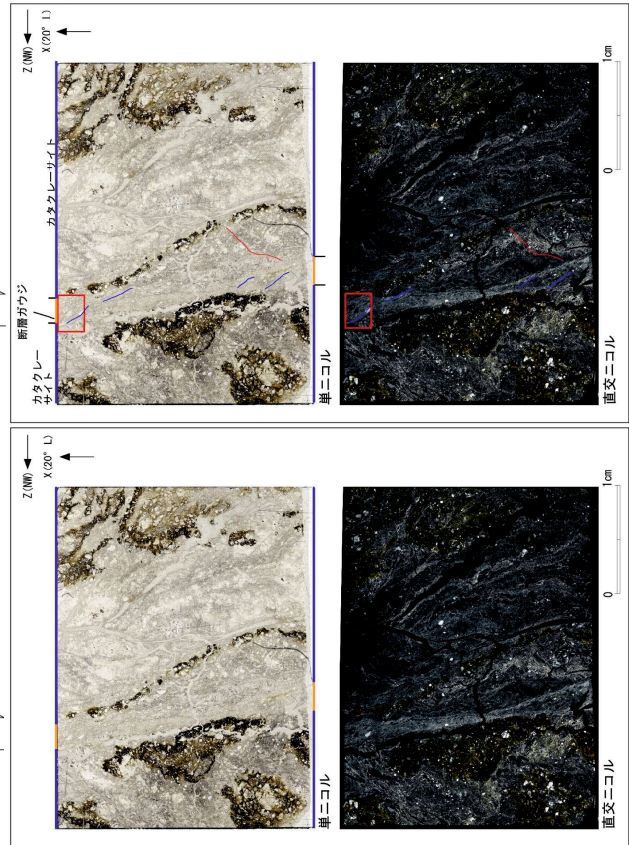
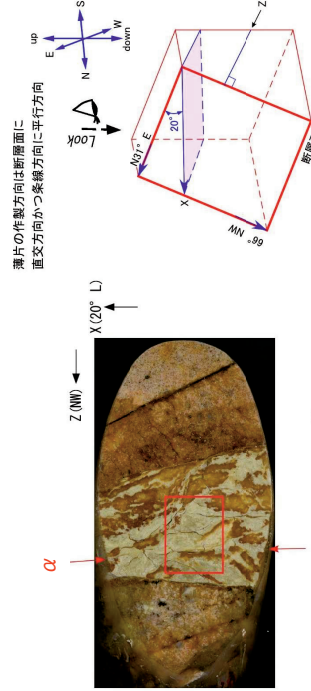
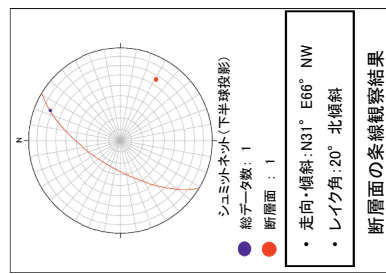
薄片全景写真(単ニコル)



X:条線方向(下向きを正とする)
 Z:断層面の法線方向(上盤側を正とする)

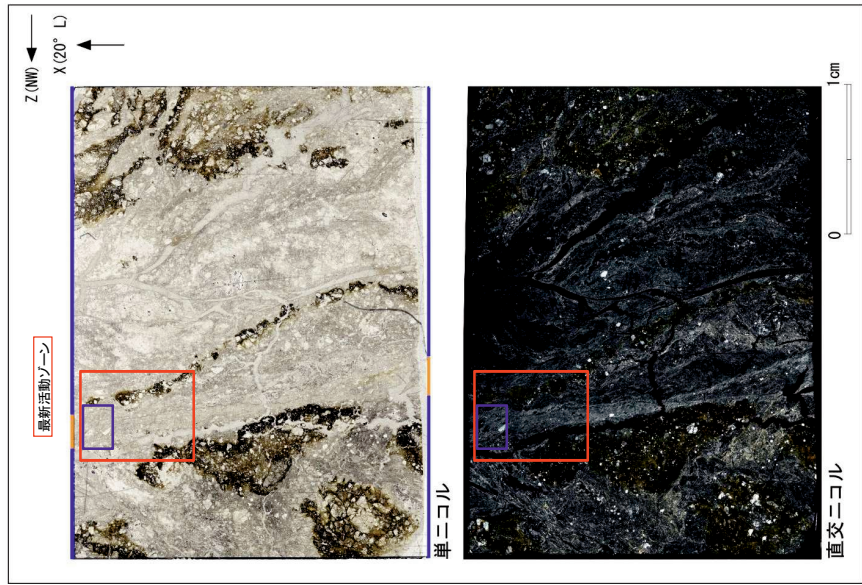
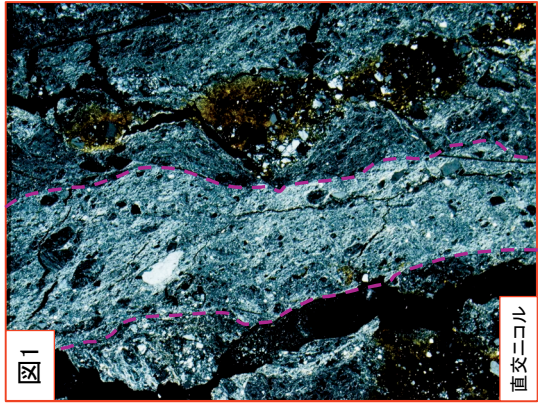
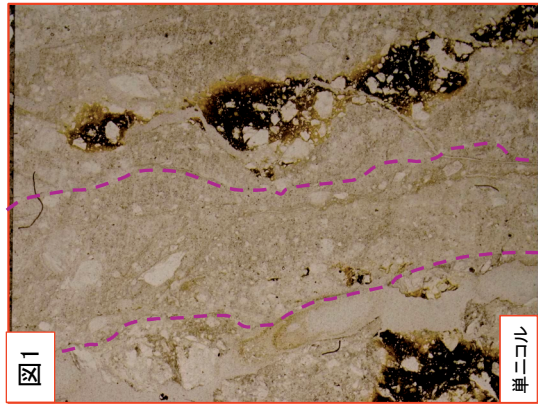
- ・H24-D1-3のボーリングコアから採取した薄片試料の観察結果によれば最新活動ゾーンの変位センスは、右ずれ成分が卓越する。
- ・最新活動ゾーンに以下の特徴が認められることから、断層ガウジと判断した。
 - (断層ガウジ) せん断構造に伴う粘土鉱物の定向配列が認められる。
 - (断層ガウジ) 基質は粘土鉱物を主体とする。
 - (断層ガウジ) 粘土状部の分布は帯状で直線的である。
 - 岩片は少ない。
 - (断層ガウジ) 丸みを帯びている岩片が多い。

※断層面 α は最新活動面

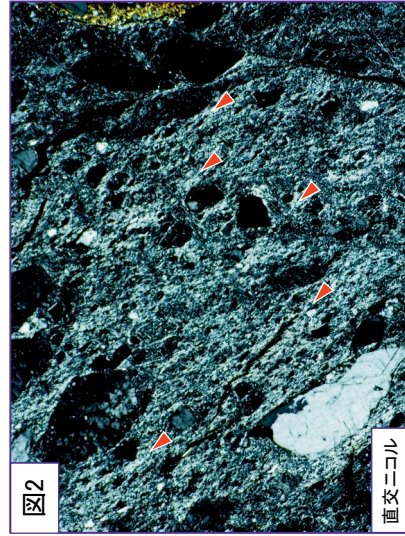
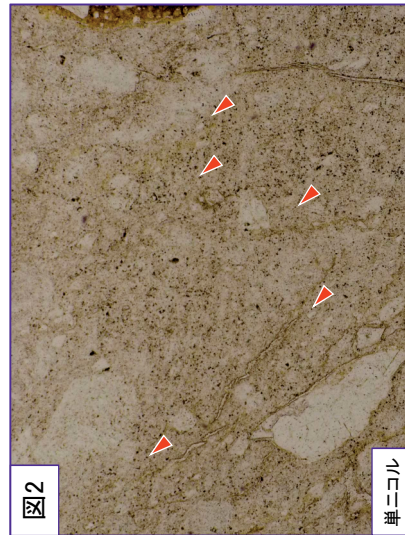


第7.4.4.320図 (3) 破碎部性状 H24-D1-3 深度14.41~14.52m (変位センス, 薄片観察による断層岩区分(1/2))

- 最新活動ゾーンには、以下の特徴が認められる。
- せん断構造に伴う粘土鉱物の定向配列が認められる。(図2)
- 基質は粘土鉱物を主体とする。(図1, 2)
- 粘土状部の分布は帯状で直線的である。(図1)
- 岩片は少ない。(図2)
- 丸みを帯びている岩片が多い。(図2)



破線は帯状で直線的な粘土状部の範囲を示す



凡例
 断層ガウジ
 カタクレーサイト

赤三角は粘土鉱物の配列を示す

(肉眼観察結果 深度14.47m)

- 肉眼観察では、礫混じり粘土状部は軟質で、細粒部の連続性及び直線性が良く、原岩組織が認められる岩片を主体として基質が細粒化した岩片からなる組織は認められない。これらことから断層ガウジであると判断した。

(観察位置)

- 薄片試料は、肉眼観察により認定した断層面 α に沿って最も細粒化した部分を含み、人為的な試料の乱れの無い部分で作製した。

※断層面 α は最新活動面

(薄片観察結果)

- 薄片観察では、以下の通り断層ガウジの特徴が認められた。
 - せん断構造に伴う粘土鉱物の定向配列が認められる。
 - 基質は粘土鉱物を主体とする。
 - 粘土状部の分布は帯状で直線的である。
 - 岩片は少ない。
 - 丸みを帯びている岩片が多い。
- 薄片観察では、カタクレーサイトの特徴が認められなかった。

以上より、薄片観察結果では、最新活動ゾーンの細粒部を断層ガウジであると判断した。



(総合評価)

当該破砕部については、以下の理由から断層ガウジであると評価した。

- 肉眼観察で確認された礫混じり粘土状部は、その特徴から断層ガウジであると判断した。
- 薄片観察で確認された最新活動ゾーンの細粒部は、その特徴から断層ガウジであると判断した。

断層ガウジ・断層角礫の有無	断層ガウジ・断層角礫の幅[cm] *	明瞭なせん断構造・変形構造 *
有	1.8	有

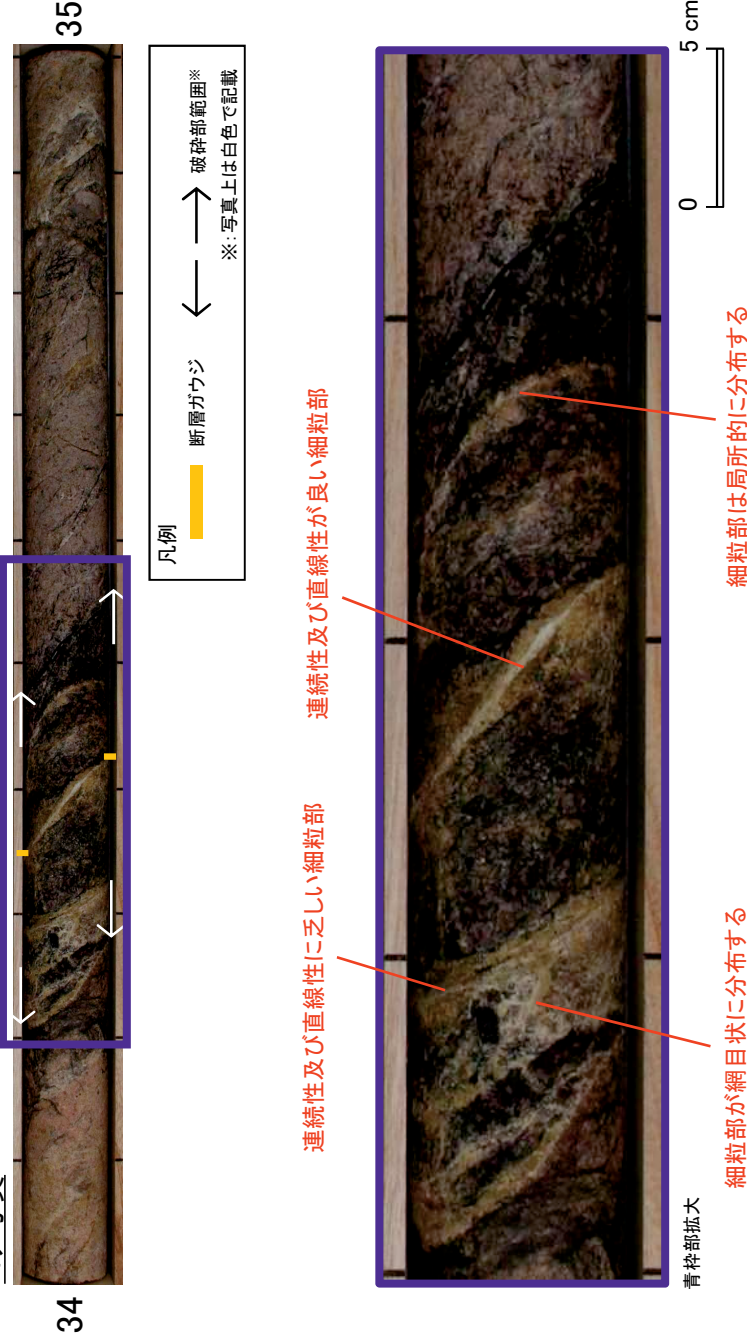
* :断層岩区分の総合評価で断層ガウジ・断層角礫の有無が「有」の場合は肉眼観察結果を記載。
断層岩区分の総合評価で断層ガウジ・断層角礫の有無が「無」の場合は「-」と記載して括弧内に肉眼観察結果を記載。

- ・深度34.23～34.39mの「粘土混じり岩片状」と記載の箇所については、やや硬質で、含まれる細粒部は網目状に分布し、連続性及び直線性に乏しく、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化したことから変質したカタクレーサイトであると判断した。
- ・深度34.30mの「灰黄色粘土脈」と記載の箇所については、粘土状を呈し、やや軟質で、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織も認められないが、細粒部の連続性及び直線性に乏しい。これらのことから変質したカタクレーサイトであると判断した。含まれる細粒部は、変質したカタクレーサイト中の粘土脈である。
- ・深度34.39～34.40mの「粘土状」と記載の箇所については、軟質で、細粒部の連続性及び直線性が良く、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織も認められない。これらのことから断層ガウジであると判断した。
- ・深度34.40～34.52mの「粘土混じり岩片状」と記載の箇所については、やや硬質で、含まれる細粒部は局所的に分布し、連続性及び直線性に乏しく、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織も認められる。これらのことから変質したカタクレーサイトであると判断した。

ボーリング柱状図

- 34.23～34.52m：破砕部（D-1破砕帯）
- 34.23～34.39m：粘土混じり岩片状部（Hj）
上端50°、下端55°とともに直線的でシャープに連続。径5～10mmの粘土化～硬さDの岩片と岩片間を幅1～2mmの灰黄色の軟質粘土が網状に分布する。岩片はマンガン鉱染により黒褐色化する。灰黄～灰黄褐色を呈する。また、34.30mには傾斜30°で幅1～2mのやや軟質な灰黄色粘土脈を伴うせん断面がある。
- 34.39～34.40m：粘土状部（Hc-1）
傾斜55°で直線的にシャープに連続する。径1mmの石英粒を含む。軟質。白色～灰黄色を呈する。幅5～7mm。
- 34.40～34.52m：粘土混じり岩片状部（Hj）
上端55°、下端55°とともに直線的でシャープに連続。径5～10mmの硬さDないし粘土化した岩片が主体である。岩片は岩組織が消えている。岩片間の一部に幅0.5～1mmの軟質な粘土が分布する。岩片はマンガン鉱染により黒褐色化する。全体に灰黄褐色を呈する。

コア写真



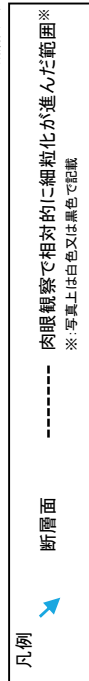
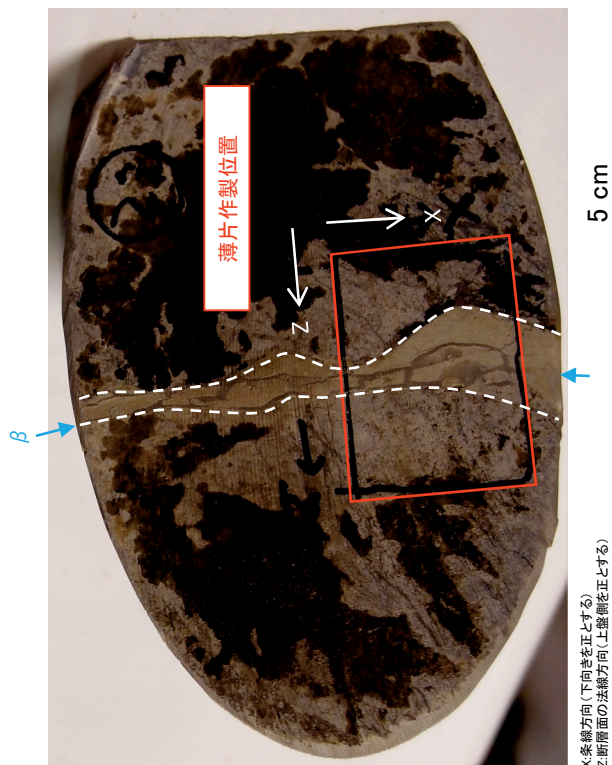
・薄片は断層面β及び細粒化が進んだ範囲を含むように作製した。

※断層面βは最新活動面

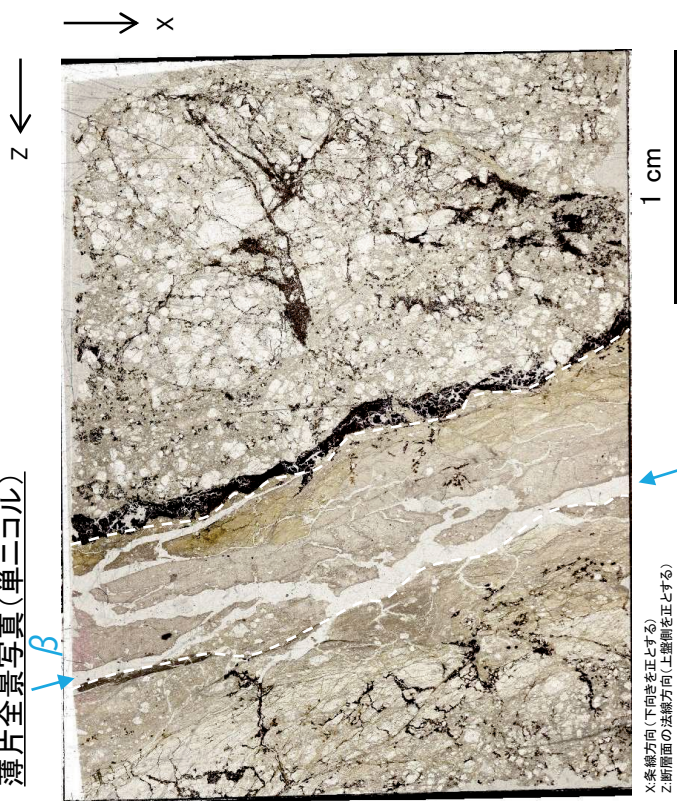
コア写真



薄片作製位置写真



薄片全景写真(単ニコル)



X: 条線方向(下向きを正とする)
Z: 断層面の法線方向(上向きを正とする)